



CR装置。レントゲン、超音波、手術中の写真、病理写真などデジタル画像を一括で管理できる。インフォームドコンセントには欠かせない。

積極的、自発的に新しい情報を入れ、勉強することが、よい獣医師、妥協のない治療を行う上での必須条件だと中村さんはいう。「適切な検査をし、現状をきちんと分析し、理論的な

治療方針などを示せなくてはどうしても刺戟になっています」  
「癌を患っているけれど、高齢のためハイリスクな手術は不可能、肺にも転移しているので手術は無意味、あるいは抗がん剤の負担には耐えられない、といった場合でも、飼い主さんであれば、何かしてあげたいと思うでしょう。そんなとき、この免疫療法によって、本人のリンパ球を増殖し、副作用が少ない形で、抵抗力、免疫力を上げることができ



活性化自己リンパ球療法のための設備、クリーンベンチ&インキュベーター

を手掛けます。それは、やりがいがありますよ」  
その意味では、勉強をする人としらない人のレベルの差はどんどん広がっていくという。  
「実際、大病院での研修の中で、沢山の事を勉強さ

せていただきました。今の自分があるのも大病院で御指導いただいた先生方のおかげです。また、勉強をするため集まってくる獣医さんも自分よりレベルが高く、とても刺激になっています」

治療方針などを示せなくてはどうしても刺戟になっています」

「実際に、漢方や針治療などの新しいスキルも勉強し、積極的に治療のメニューに加えています。治療のための選択肢はたくさんあるに越したことはない。その中で、飼い主さんが納得のいく治療を選択する。納得できるかどうか、最も大切なことなのです」

## 内視鏡、免疫療法など、妥協のない治療のためには投資も惜しまない



Otakibashi Animal Hospital  
小滝橋動物病院

Doctor  
中村泰治

小滝橋動物病院の設備には、どんな症例にもベストを尽くしたいという中村泰治院長の獣医師としての心意気がにじみ出ている。ガス麻酔器はもちろん、生体モニター、各種検査機器、内視鏡は6ミリと8ミリの2本を揃えている。さらに、血液から採取したリンパ球を活性化させ増殖して、体内に再び戻すという免疫療法のための装置まである。「内視鏡や免疫療法に使用する機械など、数百万円もかかるような機械を導入しても、実際に使用するケースはそれほど多くありません。費用的には、経営を圧迫してまずよ(笑)。でも、機械がないから処置ができない、助けられないという

ような悔しい思いはなるべくしたくないのです」  
たとえば、内視鏡があることで、お腹を切らずに、胃や十二指腸、直腸などの潰瘍や腫瘍を見つけだすことが可能になるのだ。  
手術台の横には、カメラが接続された顕微鏡が置かれていた。手術中、切除した組織を標本にして、モニターで確認できる。手術に立ち会った飼い主が、それを一緒に確認することも可能だ。  
「必要な機械はまだありません。透視レントゲン撮影やCT撮影器など、今後徐々に設備を充実させていきたいと考えています」  
日々、多くの動物たちが受診に訪れる。一つとして

同じ命はない。一つ一つの命に対し、できる限りの治療をしたい、という信念に突き動かされた結果だ。  
**自発的に学ぶか否かで獣医師の腕は大きく変わる**  
中村さんの獣医師という仕事への飽きなき情熱は、小動物が大好きだった幼少時代に培われた。  
「小さい頃から、ミドリガメやインコやハムスターやらの、小動物が大好きでした。高校生のときに獣医という仕事を知り、もうそれ以外は考えられなくなつて。だから大学も獣医学部しか受けなかった。人間の病院と違って動物病院は、外科から内科、皮膚科、小児科、眼科、あらゆる分野